

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500122		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム 亀ハウス		
所在地	822-1314 福岡県田川郡糸田町3122-3	Tel 0947-26-3434	
自己評価作成日	平成 23年10月3日	評価結果確定日	平成23年11月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

亀ハウス前にある広場を利用し、家族の方々・地域の方々との交流を深める為、5月に亀ハウス祭り、9月は夕涼み会(花火大会)といった場を設けて、皆さんに楽しんで頂けるよう努めています。また、地域の盆踊り大会、カラオケ大会に参加させて頂き、地域の一員として楽しい時間を過ごさせて頂いています。毎月2、3回ドライブサービス・ショッピングを行っています。また、四季を感じて頂く為、春はお弁当を持参し桜見、夏は海(マリンワールド見学会)、秋にはぶどう狩り、紅葉見学を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年10月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀ハウスは、周囲に公園、祭り広場、JA等、利便性の良い場所にあり、開設10年目を迎えるグループホームである。利用者職員は、地域の夏祭り、山笠、JAイベント、敬老会等に参加し、ホームの亀ハウス祭りや、夕涼みの花火大会等、近隣住民との相互交流が定着している。利用者の生きがいと健康管理は、特に重要視し、家族同伴の夕食や買い物、弁当持参の桜見、水族館、ぶどう狩りや紅葉見物等、日々の暮らしにメリハリをつけ、生き活きとした暮らしの支援を実施している。また、いつまでも亀ハウスで暮らし続けるために、利用者一人ひとりの健康チェックを細かく観察し、協力医療機関の往診と合わせ、充実した健康管理体制が確立されている。今後はグループホームの先駆者として、地域社会に貢献しながら介護サービスの充実を図っていくグループホーム亀ハウスである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員全員で理念を復唱している。	人生の先輩である利用者から生活の知恵を学び悩みや喜びを分かち合い、家庭的な温もりを感じながら、生活が出来るよう支援することを理念に掲げている。職員は、毎朝理念を唱和をし、利用者に寄り添って支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、苑だよりを役場地域役員の方に出すことで理解していただき、また、苑での行事、地域での行事に積極的に参加する事で理解して頂いている。	利用者と職員は、月2回地域の老人会とふれあいの機会を持っている。ホームの行事に地域の人がボランティアとして参加し、信頼関係が築かれている。近隣の人が気軽に立ち寄り、利用者と会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑での行事に、地域の方にボランティアの形で参加していただき、また、月2回地域の老人会の方とのふれ合いをもうけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開いている。苑での行事報告・サービスの説明を行っている。また、助言等を取り入れサービス向上に努めている。	会議ではホームの現状や取り組みを報告すると共に、実施した行事の反省点を明らかにし、助言や意見を積極的に聴いている。また、遠出の見学会にボランティアとして参加し、サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町が主催している敬老会、文化祭に参加し、また、地域のカラオケ大会、盆踊り大会に参加、サービスの向上に努めている。	苑便りを役場の担当課に配布し、ホームの実情を伝えると共に助言や情報を貰っている。町主催の行事に利用者と職員が参加し、地域の人と交流を深める等、行政との連携を密にし、サービスに反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束マニュアルを整備し、内部、外部の研修を受講し、職員一人ひとりが理解して、身体拘束をしないケアの実践をしている。また、日中は利用者の安全を配慮しながら、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で声掛けを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に施設長より説明を行っている。成年後見制度に関しては、勉強会を設けて職員全員が応じられるよう努めている。	現在制度を活用している利用者はいないが、必要時にはいつでも利用者、家族に説明できるよう資料を揃えている。また、制度に関する研修会を実施し、理解を深めている。入居時には、利用者、家族に説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に施設長より十分に説明をして頂き、一部交付している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様と関わりあいを持ち利用者様の声を聞くよう心がけている。	家族の来訪時には利用者の状況を伝え、積極的に意向を聴いている。前回課題としてあげられていた意見箱の設置や家族会を発足し、利用者や家族の意向を、ホーム運営に反映させる取り組みをしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面会時に家族の方と話し合いを設けている。また、年に1回家族会を設けている。参加できない家族の方は、意見・要望用紙を送付し、記入して頂き返送して頂いている。	管理者は、週に1度のスタッフ会議や、毎月の勉強会など機会を捉えて職員の意見や要望、悩み事等を聴き迅速に対応している。勤務表作成時には、事前に希望休を聞く等、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を聞きいれ一人一人が向上心を持って、働けるよう迅速な対応を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については上司が判断している。それぞれの能力を十分に発揮できるよう取り組んでいる。性別年齢制限無。	職員の採用は、性別や年齢の制限は設けていない。定年後も働く意欲のある人は、経験や知識を活かしながら働き続けることが出来る。資格取得を目指す職員には、勤務ローテーションを考慮する配慮がなされている。また、休憩室やロッカーも完備されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月1回勉強会スタッフ会議を設けて取り組んでいる。毎日、朝礼時に施設長、上司が行っている。	職員は、利用者に、人権や誇りを損なうような事がないよう、毎月勉強会で取り上げ、管理者は毎朝の朝礼でも必ず触れている。職員は言葉遣いや態度に注意しながら、利用者の、人権を尊重した対応をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼、勉強会に参加している。また、内部研修にも参加している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に、月に1回参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に本人様の状況の把握を施設長、上司が行う。その後スタッフに報告がある。	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、上司が、家族との話し合いを設けている。その後スタッフに報告がある。	
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、上司が、家族との話し合いを設けている。その後スタッフに報告があり対応している。本人様や家族の意見を聞き、どのようなサービスが必要か対応している。	
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々利用者様と食器の片付けを行い信頼関係を深めている。また、月に1～2回外食会、ドライブサービスショッピングを設けている。	
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族との関係を理解しそれに対応した支援を行っている。	
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回ドライブサービス等で本人様の馴染みの場所に言ったり、地域の行事に参加したり苑外散歩を通して関係を保てるよう努めている。また、日常会話に中で取り入れている	馴染みの場所や、人との関係が途切れないよう、利用者の行きたい所や、会いたい人などを聴き取り、対応している。自宅や昔働いていた職場や神社への月参り等、希望は様々であるが、出来るだけ一人ひとりが、満足できるよう支援している。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際グループわけを行い会話をして頂く。また、誕生会等のレクリエーションへの参加を促し関わって頂いている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	苑でのイベント、への参加を電話やはがき等を送付して参加を促している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを取り本人様の意向に沿うよう努めている。困難な時は家族と話し合いを行い意見をふまえた中で検討している。	職員は、日々の目配り、気配り、心配りをする事で利用者の言葉や表情の変化を見逃すことなく意向に沿った対応をしている。職員の異動が少なく、利用者信頼関係が築かれている事も利用者の意向の把握を容易にしている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人暮らしであった利用者様は、昔の情報少なく既往歴で把握する事が困難、その為一人ひとりのスタッフが利用者様と関わり、本人様より昔のことを聞き出しすこしでも環境に近づけるよう努めている。	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	苑での生活を楽しんでいただけるよう日々目配り、気配り、心配りを徹底している。	
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回勉強会、スタッフ会議を設けている。また、家族とも面会時や連絡を取っている。	面会時の家族の意向や家族会で出された意見、日々の関わりの中で得た利用者の状況を、スタッフ会議等で検討し、計画に反映させている。利用者の状況の変化に応じて、その都度見直し、現状に即した計画になるよう作成している。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回スタッフ会議を設け、その際にスタッフ間で情報を共有している。また、日々朝夕の申し送りにて共有し日々の様子等個別のケース記録に記入している。	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様との話し合いを設けて、本人様に合ったサービスを支援している。あ(特養やデイサービス)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開く事で民生員、老人会の方などの協力を得ることができている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族様との話し合いを設けて、希望、要望を十分に取り入れている。	月に2回の往診、週に1回の訪問歯科、月に2回の訪問看護等、医療連携体制も整えられている。利用者、家族の希望や意向を尊重し、かかりつけ医への受診支援をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時等訪問看護師に連絡を行い担当医の指示の元適切な支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、2、3日に1回面会に行き状態把握を行っている。直方在宅診療所の担当医といつでも連絡を取り合っており対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、施設長、上司、医療機関との話し合いを設けて対応している。	重度化、終末期のあり方について早い段階からホームで出来ることや医療機関が望ましいこと等の説明をした上で家族の意向を確認している。利用者の状況の変化時はその都度、関係者間で話し合い、方針を共有し、より良い方法を選択できるように支援体制を整えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の勉強会で定期的に訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは各自消火器の配置場所を把握している。運営推進会議にて協力して頂ける働きかけをしている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施し、2階部分は誘導路が階段のみという状況を踏まえ、日頃から手順の確認や、消火器の配置場所の把握等、いざという時に慌てずできるように訓練している。地域の住民参加の避難訓練までには至っていない。	年1回は消防署立会いの訓練の実施が望まれる。又、非常災害時は地域住民の協力が不可欠であり、運営推進会議の際に、避難訓練を計画する等住民が参加しやすい状況を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々スタッフ間で声を掛け合い一人ひとり徹底して対応している。	利用者の意向が表出しやすいように、会話の機会を多く持ち、最後まで遮ることなく聴くよう努めている。記録類は人目に触れぬ所に保管し、利用者の写真を掲載する際には、事前に家族の承諾を得るなど、個人情報の保護には細心の注意をはらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々利用者との会話を大切にし思いや希望を聞ける体制を作っている。また、個人個人の意見を尊重するよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者様のペースにあわせて行えるよう心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに合わせて副総統を決めて頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、後片付けを行っている。また、月に1回料理の日を設けて一緒に準備を行っている。	食事の献立の作成から、食材の調達、調理等全てホームで実施し、利用者の出来る範囲は、職員と一緒にしている。また、月に1、2回料理の日を設け、利用者が中心となり食事を作っている。毎月の外食会では、ビール等酒類も嗜むことが出来、利用者の楽しみの一つになっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表水分摂取量表に記入し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い毎日就寝前にポリデント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄時間の把握を行っている。	排泄チェック表や利用者の言動から排泄パターンを把握し、さり気なく声かけや誘導等、トイレでの排泄を大切に支援している。入居前はオムツを使用していた利用者が、入居後布パンツに代わる等、取り組みの成果も見られている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い水分補給を十分に行っている。排便確認を取れない時は、服薬にて対応している。また、10時15時のおやつ前にラジオ体操、リハビリ体操を取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	認知症の方が多い為スタッフで現状把握を行っている。決められた時間帯で夜間は困難である。その中でも入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	週に3回と入浴日は決めているが、利用者の状況や希望に沿って毎日の入浴も可能である。入浴時は利用者のペースを尊重しながら楽しい時間となるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分に配慮し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認、副作用等記載用紙を保管、ファイルを作成し確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様のできることを見出し役割分担して行っている。月に2、3回ドライブサービス、外食会、ショッピング等を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際、スタッフ付き添いにて行っている。また、月に2、3回外食会、ショッピング、ドライブサービスを設け、家族、地域の方にも声掛けを行い協力して頂いている。	月に2、3回の外食、ショッピング、利用者の馴染みの場所や希望の場所へのドライブ等、外に出る機会を多く計画している。遠出のレクレーション時は、家族や地域の人と一緒に出かけるなど、出来るだけ利用者全員が、揃って出かけられるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方が多く管理出来ない。利用者様は、家族の了承を得て施設で管理している。ショッピング等のときは、その預り金にて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり手紙を書いたりへの支援はできる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等はブラインドで調節している。季節ごとに壁紙を変えている。四季折々にあった食材を食べていただいている。	玄関先には季節の花が植えられている。共用スペースの至る所に季節感を取り入れた飾りつけをし、壁紙も季節ごとに交換する等、居ながらにして季節を肌で感じる事が出来るように工夫されている。居間や食堂に椅子やソファを配置し、家庭的な雰囲気の空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファを置いてくつろげるようにしている。利用者様一人ひとり各自居室がある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自使い慣れた家具をもって来て頂き、ない方は家族に報告し購入していただいている。	使い慣れた家具や馴染みの品は利用者、家族と相談しながら揃えている。家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせるように、壁には、家族の写真や手作りの品が飾られ、居心地良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた生活を送って頂けるようスタッフ間で声を掛け合い対応している。		